

第1回新人・全体研修『デッサンⅡ』

大阪府立港高等学校 青木 岳

日時：2022年6月24日（金）快晴 13:30～17:00

会場：大阪府立柴島高等学校 4階 美術教室

内容：デッサンⅡ（3年選択科目 2年次にデッサンⅠ履修済）担当者：岸野 照葉先生

1. 授業見学 少し遅れて入室するとボールペンで5分、2ポーズ目のクロッキーの最中だった。担当の岸野先生がモデルをされていてある生徒に対する合理的配慮だとの説明を受ける。授業における『デッサン』という言葉に結構縛られていたなと感じた。デッサン（仏）ドローイング（英）素描。これらの言葉でのイメージは随分違って来る。デッサンという名の授業だったのでどうしても受験デッサンのイメージでしか捉えられていなかった。

クロッキーなので完成後すぐに講評が出来る利点がある。この講座は1年次選択者のみ継続選択が出来るので、生徒も講評は慣れた感じであった。（1、クラス名前 2、モチーフに一番魅力を感じて一番表現したいところ 3、完成に向けて頑張りたいこと） というように講評内で発言すべきところが分かり易く表示されていた。殆どの生徒が芸術系の進路を考えているとのこと。廊下には紙風船をモチーフにした着彩画が展示されており、様々な受験形態に対応した形をとっていた。また作品のサイクルを上げるために小さめの八つ切りの用紙で行っていた。生徒も飽きずに制作出来ると感じた。

前後期制の総合学科なので、この講座は水金合計4時間前期のみで2単位取得出来る。普段慣れている週1回の2時間連続の講座が週2回、、実習及び準備を考える。想像が追いつかなかった。



2. 施設見学など 今までいくつかの学校の授業見学に行き施設見学を見て回った。基本的に見せられる授業なので内容は素晴らしく、施設などの環境に関してはいつもの諦観の様な溜息をついてみたり。

だが、そもそも高校における美術教育の実情に大きな変化が出てきていると感じている。（もう20年以上前から指摘されている。）偏差値で輪切りにされた高校順列から、この柴島高校をはじめとする総合学科など様々なタイプの学校が存在している。総合学科に関しても同列では語れず、一昨年の高校選抜で総合学科が軒並み定員割れを起こした事は記憶に新しい。常に流動的で予測が付きにくい状況である。

また支援学校からの教員異動も行われている中、大阪府全体で考えると各ブロック（地域）において、専任教、非専任教のアンバランスさが目立ちだし、今年度から大幅なブロック再編へと大きく舵を切った。ただこれは人数均衡是正の面が強かったので、これからの新しい各ブロック内での変化に注視していきたい。ちなみに柴島高校では専任の先生は5名と聞き「えっ！多いなあ」と皆さんも感じられていたが、多種多様にわたる芸術科の科目、自立支援コースのある総合学科として考えると途端に適正教員数というものが分からなくなってしまう。高等学校って普通科、専門学科、総合学科から、定時制や単位制、通信制、府立中高一貫校や支援学校と分類しだすとキリが無いが、そもそも普通科って何が普通なのだろう？「普通教育を主とする学科」と言われても余計分からなくなる。そもそも経験に基づいて考えると、教員は自分自身が生徒として経験した学校と勤務校しか分からないものだなあとつくづく感じた。さてそこから想像力なのだが、こっちは水は甘く感じて、隣の芝は青く見えるもの。実習教科としては特に、内容の易しさ難しさだけでは測れないものがある、様々な分野やジャンル、課題に対してどうアプローチしていくか、使用する素材や道具によってとんでもなく広がってしまう。

やはりというか、観点別評価に関する質問は多く、関心の高さからの質問というより、どうしたものかといった不安の方が強いように感じた。柴島高校では、まだ対象学年ではない2、3年生も同じように観点別評価で成績を付けられているとの事。参考資料として教育学者である田村学氏の学習目標と学習評価などを紹介して頂いた。この研修で教えて頂きご馳走になったバタフライピーは早速、ネットから注文しました。目の覚めるような青でした。

デッサンⅡ指導略案(6/24)		
1 教科	デッサンⅡ(3年選択科目 2年次にデッサンⅠ履修済)	
2 日時	前期 13回目 6月24日(金) 5・6限	
3 場所	4F 美術教室	
4 生徒	3年 11名	
5 教員	岸野 陽菜	
6 題材	色彩構成	
7 ねらい	モチーフの魅力を自分なりに設定し、色彩によって表現できる。	
8 評価		
知識・技能	デッサン	モチーフの形や特徴を正確にとらえながら、鉛筆の濃淡で表現している。
	作品	画面の構成について、意図して色彩を用いて画面を魅力的に制作している。
思考・判断・表現	プリント	アイディアを4つ以上考案し、モチーフの構成要素の様々な組み合わせを試して、構成を考えている。
	作品	構成要素の大きさや向き、画面の余白を工夫しながら、ひとめでモチーフの魅力が伝わるように制作している。
主体的に学習に取り組む態度	プリント	アイディアスケッチを多くおこない、よりよい表現ができるように、多角的に試行錯誤している。
	作品	構成要素をより的確に表現するために、画面全体を確かめながら、工夫して塗っている。

学習内容	教員の動き	準備物
① 着席・挨拶	言葉かけをおこなう。	プロジェクター・スクリーン・資料・アクリルガッシュ・筆・水入れ・雑巾・拭し紙・ケント紙
② 出欠確認		
③ 本日の流れ、目標確認	スライドで提示する。	
④ 参考資料提示	ひとつのテーマにしぼり、参考作品や、技法を画像や映像で提示する。	
⑤ 中間講評		
⑥ 制作		
⑦ 片付け	それぞれの制作の進度に応じて、	
⑧ ふりかえり記入	言葉かけをおこなう。	

どんだん机間巡視していただいて、客観的な視点で作品を見ていただき、生徒へのアドバイスをくださってもかまいません。よろしくお願いいたします。